

発行：2025年10月

作成：内閣府政策統括官(防災担当)付

参事官(普及・防災教育・NPOボランティア連携担当)付

〒107-0052 東京都港区赤坂2-4-6 赤坂グリーンクロス18階

代表:03-5253-2111 直通:03-5797-7922

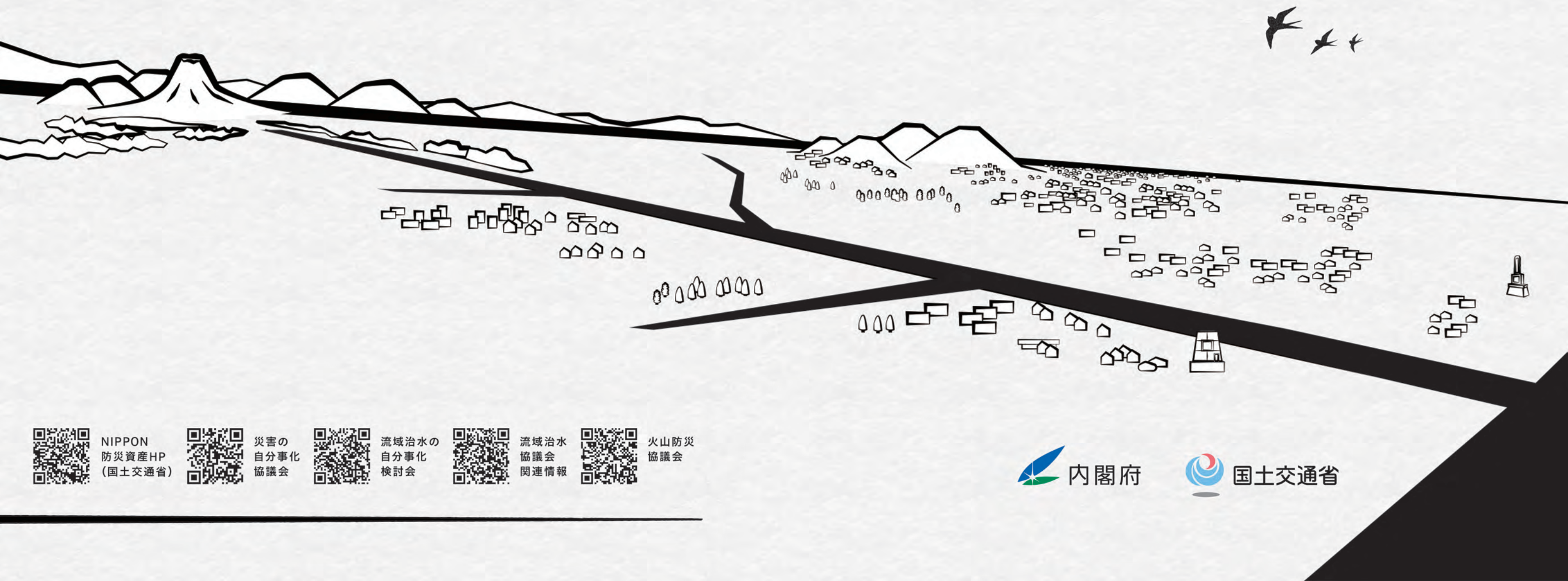
国土交通省水管理・国土保全局 河川計画課

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3

代表:03-5253-8111 直通:03-5253-8443



災害伝承に関する良質な施設や活動の普及・拡大



NIPPON
防災資産HP
(国土交通省)



災害の
自分事化
協議会



流域治水の
自分事化
検討会



流域治水
協議会
関連情報



火山防災
協議会



内閣府



国土交通省

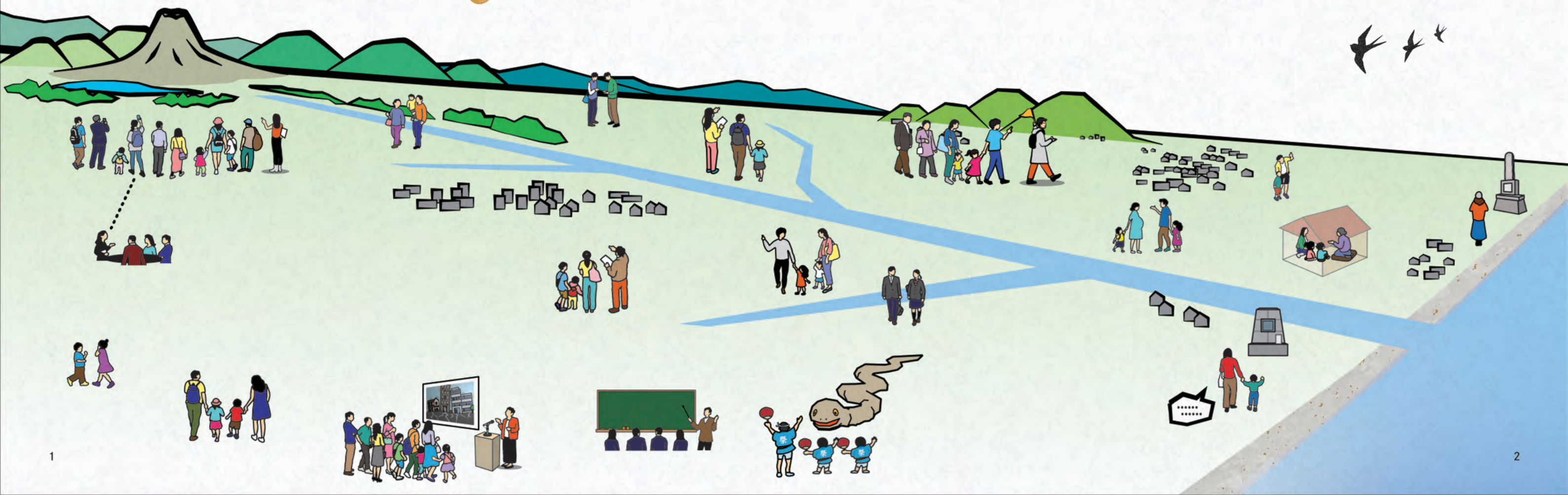
CONTENTS

優良認定

- 1 目次
- 3 伝えよう
- 5 制度の概要
- 7 認定案件
- 10 洞爺湖有珠火山マイスター
- 10 3.11伝承ロード
- 11 婦恋村・天明三年浅間山噴火災害語り継ぎ活動
- 11 えちごせきかわ大したもん蛇まつり
- 12 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
- 12 和歌山県土砂災害啓発センター
- 13 稲むらの火の館
- 13 広島市豪雨災害伝承館
- 14 四国防災八十八話マップ
- 14 黒潮町の防災ツーリズム
- 15 熊本地震 記憶の迴廊

認定

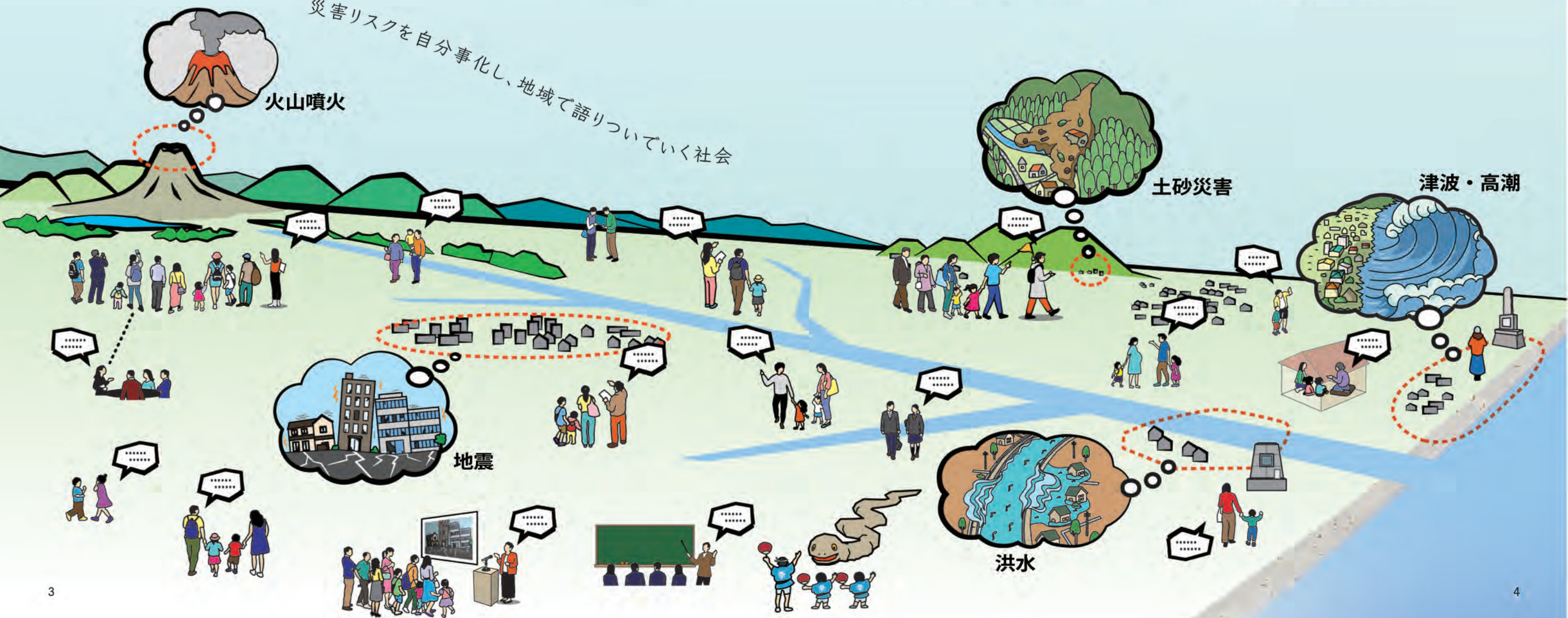
- 17 奥尻島津波館及び奥尻島津波語り部隊
- 17 厚真町震災学習プログラム
- 18 栗駒山麓ジオパーク
- 18 信濃川大河津資料館を拠点とした地域活性化の取組
- 19 土岐川・庄内川 流域治水ポータルサイト
- 19 福知山市治水記念館
- 20 坂町自然災害伝承公園
- 20 乙亥会館災害伝承展示室
- 21 雲仙岳災害記念館
- 21 念仏講まんじゅう配り
- 22 大分県災害データアーカイブ及びフィールドツアー



伝えよう

いのちをまもるために

災害リスクを自分事化し、地域で語りついでいく社会



“まさか自分が” を減らしていく

昨今、気候変動の影響により水災害が激甚化・頻発化しています。そして、大地の変動帯に位置する日本は、地震、津波、火山噴火などによる災害がいつ起こるかわかりません。私たちの暮らしには、必ずどこかに災害の危険が潜んでいるわけですが、普段、それを具体的にイメージすることは難しいと言われています。すると、災害が起きてから、「まさか自分が、災害の被害にあうなんて」と後悔することになるかもしれません。命を失ってしまつては、後悔をすることすらできません。「まさか自分が」と思わなくて済むよう、災害リスクを自分の事として捉える、「自分事化」がとても重要となつてきています。

地域で語りついでいく、 備えていく

そこで注目されるのが、「伝承」です。地域で起きた災害の記憶を、人から人へ、次の世代へと語り継いでいく、伝えていく。語り部の話で、体験館のような施設で、地域のお祭りや活動の中で、公園や伝承碑など様々な工夫・仕掛けで災害のことを人々に伝え、備えを促し、実際に行動していく。過去に起きた大きな災害でも、伝承が災害への備えに大きな役割を果たし、それが、実際に人々の命を救った事例も見られます。そこで、「地域で発生した災害の状況をわかりやすく伝える施設」や「災害の教訓を伝承する語り部」といった活動に社会の注目が集まるよう認定制度を令和6年5月に創設しました。それが、「NIPPON防災資産」です。人々が伝え合うことを大切にすると、それが災害リスクの自分事化を促し、激しくなる気候変動や大災害から命を守ることに繋がって欲しい、そのような願いがこの制度には込められています。

NIPPON防災資産

災害伝承に関する良質な施設や活動の普及・拡大

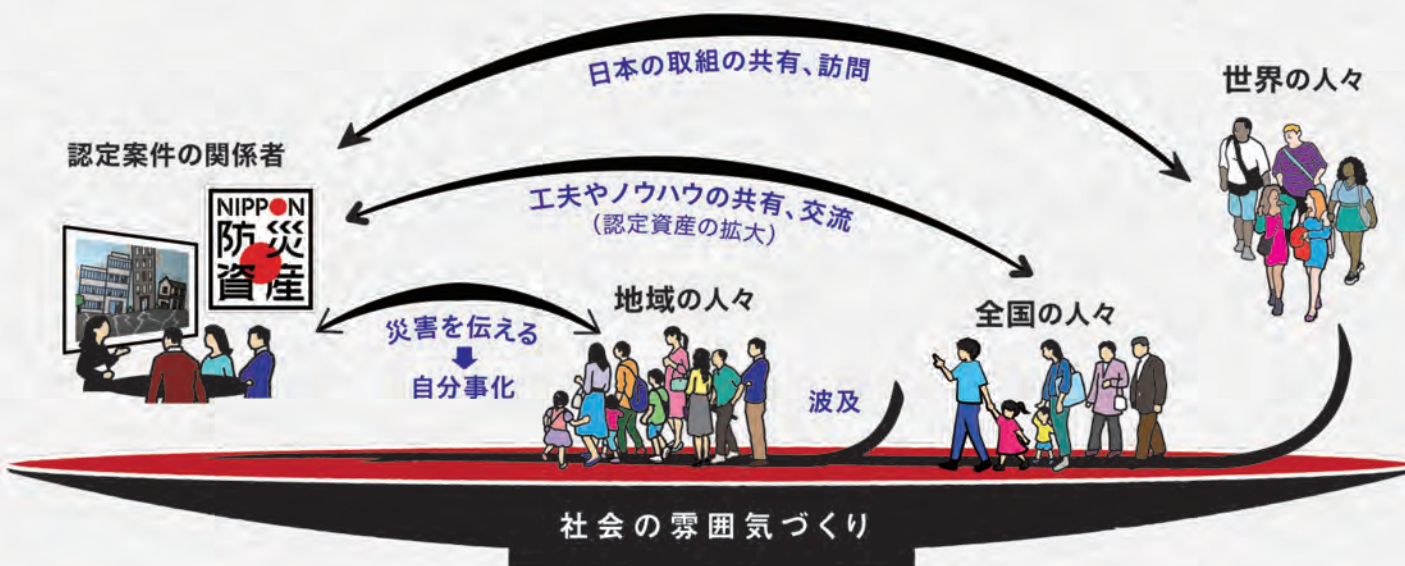
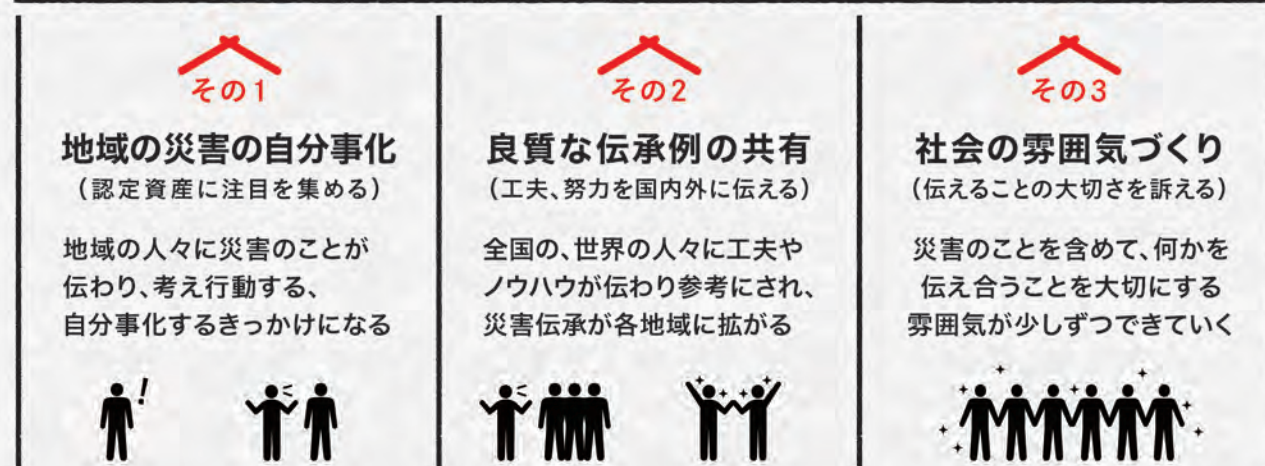
“自分事化”を進め防災力を高める

災害から命を守り、被害を最小化するためには、一人一人が災害リスクを「自分事」と捉え、主体的な避難行動や防災行動をとることが重要です。こうした観点から、内閣府と国土交通省は、「地域で発生した災害の状況をわかりやすく伝える施設」や「災害の教訓を伝承する語り部といった活動」などを、「NIPPON防災資産」として認定する制度を令和6年5月に創設しました。この制度を通じて、資産のある地域の人々の災害リスクの自分事化が進むことをはじめ、災害伝承に取り組む人々の工夫や努力が国内外に伝わり波及効果を生み出すことや、社会全体の災害に対する意識が高まることを期待しています。



認定対象(例)

こんなことに取り組んでいます



教訓が得られ深化・継続する工夫を評価

施設や活動をNIPPON防災資産として認定する際のポイントとしては、まず、事実関係が正確に伝えられているかといった、災害に関する基本的な情報が含まれているかどうか、また、そこにいわゆる学びが、教訓が含まれ、災害に対する備えに繋がるかがポイントとなります。さらには、普段の暮らしの中で、防災に結びつく仕掛けや工夫など、深い学びや行動に結びつく手がかりがあるかどうかを評価項目としています。

本認定制度の名称を、「遺産」ではなく「資産」としているのは、それぞれの活動が過去のものではなく、現在、そして未来において、価値を発揮し続けるものであってほしいという願いからで、取組の継続、発展によって、「資産」の価値がさらに高まることを期待しています。



優良認定と認定に区分

NIPPON防災資産の認定は、全国の流域治水協議会や火山防災協議会等により推薦される候補案件を対象としています(いわゆる他薦の制度です)。その中で、災害リスクを自分事化するという観点において、主体的な避難行動や防災行動につながる工夫、仕掛け等が特に優れているものを優良認定としています。



認定区分

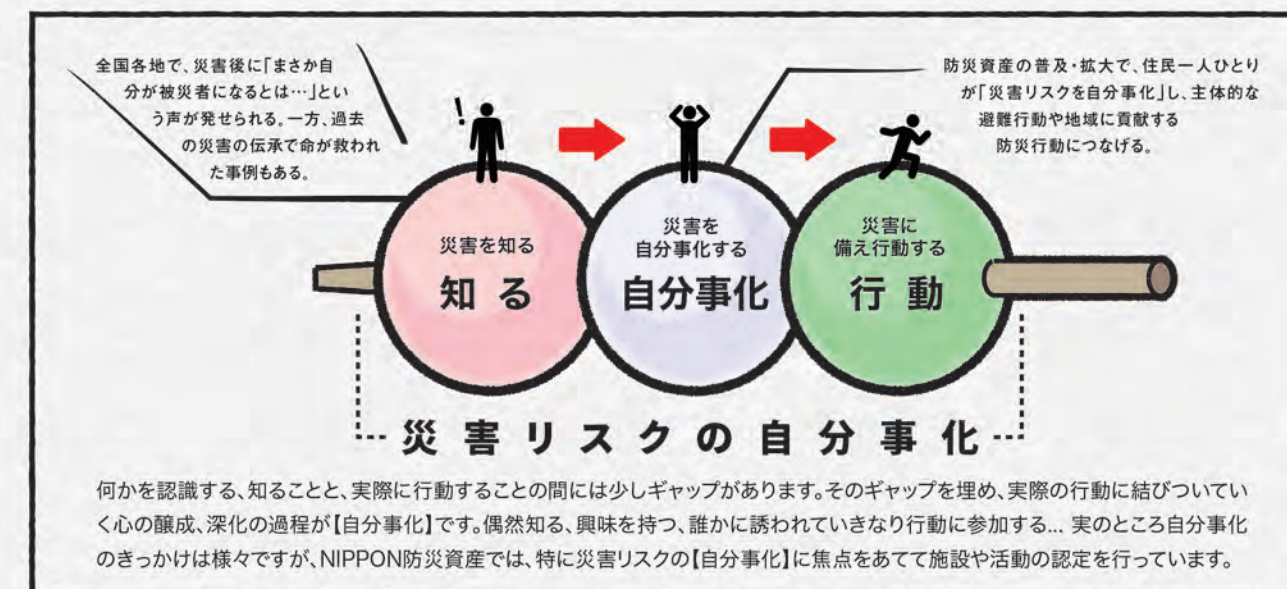
内閣府特命担当大臣・国土交通大臣が認定

全国の流域治水協議会等を通じて抽出された防災資産の候補案件を対象に、有識者による選定委員会での審議を経て、内閣府特命担当大臣(防災)及び国土交通大臣が「優良認定」・「認定」案件を認定します。優良認定・認定ともに一定の有効期間を設け、活動等が引き続き良質なものであるかの確認等を行った上で、有効期間を更新することにしています。

NIPPON防災資産としての認定を受けると、施設や活動における名称の使用や、ロゴマークの使用が可能になります。また、地域メディアからの注目度が高まることや、行政機関からの情報提供、認定対象者の交流機会の提供などの機会の増加が想定されます。総じて、施設や取組がブランド化され、地域が活性化していくことを期待しています。

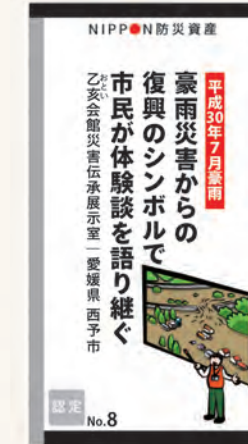
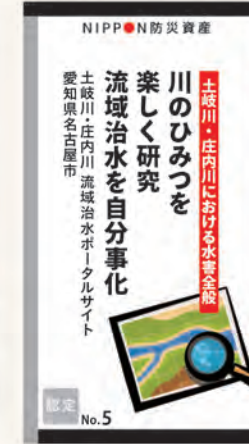
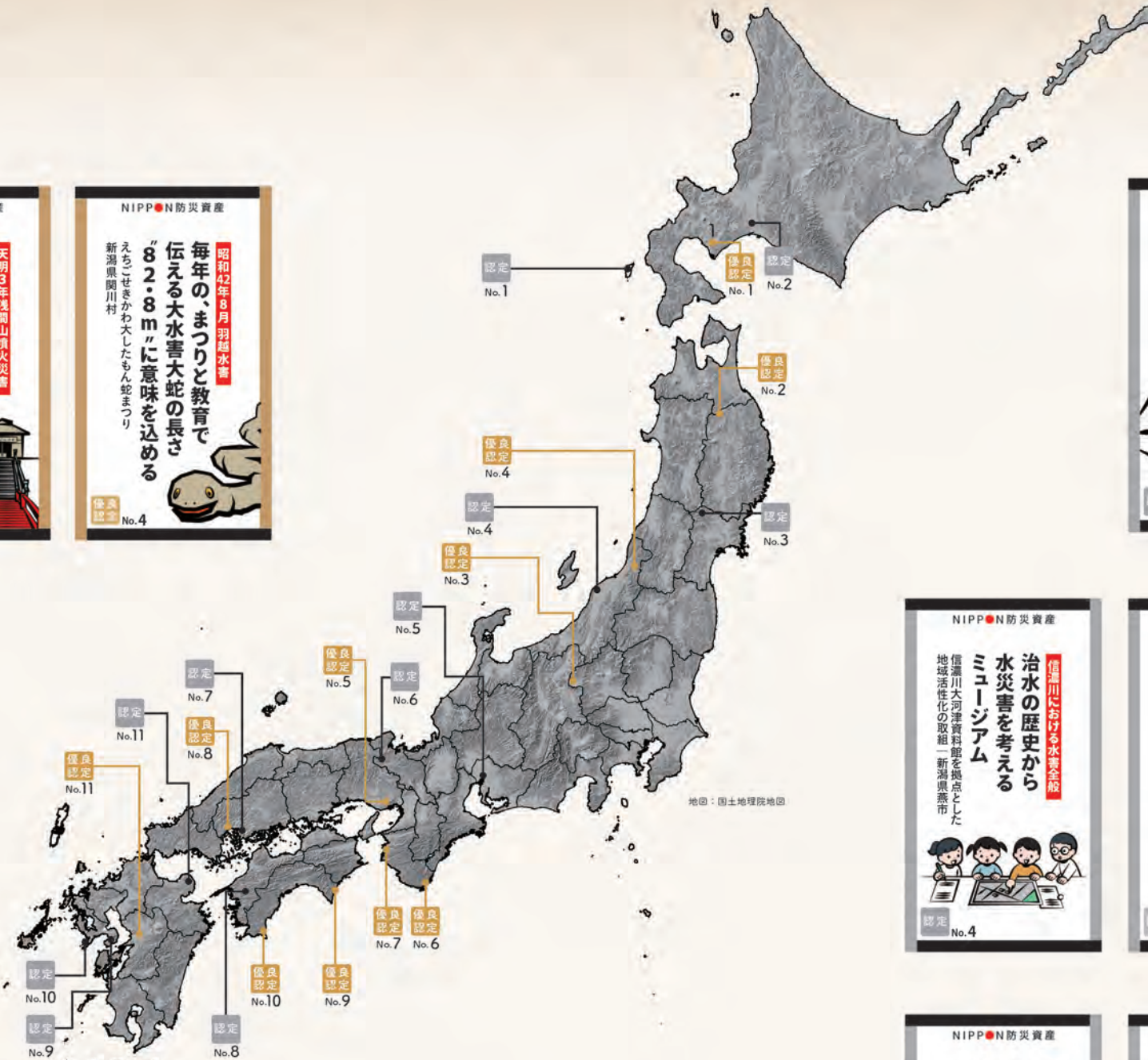
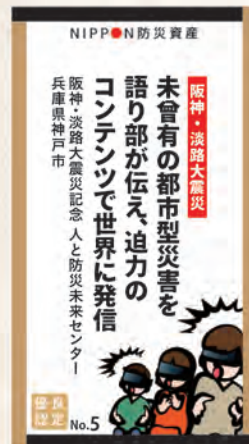
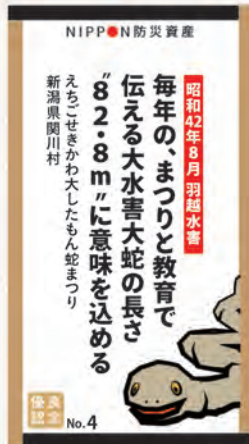
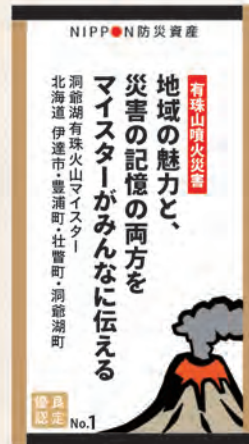


第1回NIPPON防災資産認定式(令和6年9月5日)



認定案件

NIPPON防災資産



優良認定一覧（アクセス等関連情報リンク）

- | | | |
|-----------|--|---|
| No.
1 | 洞爺湖有珠火山マイスター
 有珠山噴火災害 北海道 伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町 |  |
| No.
2 | 3.11伝承ロード
 東日本大震災 青森県・岩手県・宮城県・福島県 |  |
| No.
3 | 姶恋村・天明三年浅間山噴火災害語り継ぎ活動
 天明3年浅間山噴火災害 群馬県姶恋村 |  |
| No.
4 | えちごせきかわ大したもん蛇まつり
 昭和42年8月 羽越水害 新潟県関川村 |  |
| No.
5 | 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
 阪神・淡路大震災 兵庫県神戸市 |  |
| No.
6 | 和歌山県土砂災害啓発センター
 平成23年紀伊半島大水害 和歌山県那智勝浦町 |  |
| No.
7 | 稲むらの火の館
 安政南海地震 和歌山県広川町 |  |
| No.
8 | 広島市豪雨災害伝承館
 平成26年8月豪雨 広島県広島市 |  |
| No.
9 | 四国防災八十八話マップ
 四国における全ての災害 徳島県・香川県・愛媛県・高知県 |  |
| No.
10 | 黒潮町の防災ツーリズム
 南海トラフ地震による津波災害(想定) 高知県黒潮町 |  |
| No.
11 | 熊本地震 記憶の廻廊
 平成28年熊本地震 熊本県 |  |

洞爺湖有珠火山マイスター

| 有珠山噴火災害 | 北海道 伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町 |

地域の魅力と、災害の記憶の両方を
マイスターがみんなに伝える

江戸時代から数十年おきに噴火をくり返している有珠山の噴火の記憶や災害を軽減する知恵を、「洞爺湖有珠火山マイスター制度」を構築、運用しながら世代を超えて語り継いでいる取組です。「ユネスコ世界ジオパーク」に認定され、地質、生態系、文化など様々なみどころがある地域にあって、その自然や特性について正確な知識を有する「マイスター」が、防災リーダーとして活動しながら地域の魅力を発信しています。



火山マイスターの減災教育活動



噴火を繰り返す有珠山(20世紀4回の噴火)

写真提供: 洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会

POINT

地域の魅力の活用と継続の工夫

持続可能な人づくりの仕組みがあり、教育旅行の受け入れをはじめとして、他地域からの観光客等に対するガイドを通じて、災害伝承や地域防災の取組の紹介等に積極的に取り組んでいる点が特に優れています。
(NIPPON防災資産選定委員会)

3.11伝承ロード

| 東日本大震災 | 青森県・岩手県・宮城県・福島県 |

一般財団法人3.11伝承ロード推進機構震災伝承ネットワーク協議会

POINT

明確なコンセプトと総合力

「教訓が、いのちを救う。」という明確なコンセプトのもと、防災に関する様々な取組や活動を数多く実施しています。官民一体の「東北復興ツーリズム推進ネットワーク」を設立し、外国人も含め、旅行、教育の訪問先として、「東北復興ツーリズム」を推進している点などが特に優れています。
(NIPPON防災資産選定委員会)

3.11
DENSHO
ROAD「教訓が、いのちを救う。」
被災地全体、官学民一体で震災を伝える

東日本大震災の被災地に多くある、被災の実情や教訓を学ぶための遺構や展示施設をネットワーク化し、防災に関する「学び」や「備え」のための様々な取組や事業を行う活動です。遺構や施設の地図や案内標識の整備を行い訪問しやすくする、震災時の建設事業者の対応を映像記録として残す、さらには、東北の災害を克服した歴史と文化もあわせて訴求していくなど、ハード・ソフト両面で総合的な活動が展開され、広く興味関心を喚起する工夫が施されています。



出典: 「3.11伝承ロード推進機構」公式ホームページ



出典: 「震災伝承ネットワーク協議会」公式ホームページ

優良
認定
No.

3

嬭恋村・天明三年浅間山噴火災害語り継ぎ活動

「天明3年浅間山噴火災害」群馬県嬭恋村

江戸時代の大噴火と復興を、観音堂や地域の語り継ぎ活動を軸に未来に伝える

天明3年(1783)の浅間山噴火によって、大きな被害が生じた麓の嬭原地区には、噴火で埋もれた遺跡と地元で伝えられてきた復興の歴史や文化があります。それらを軸とした火山災害と復興を知ることができる場づくりと、200年以上続く語り継ぎ活動の取組が行われています。噴火の際に村人の生死を分けた石段は嬭原観音堂にあり、参拝客への説明や、先祖を供養するために、奉仕会活動や婦人達による念仏講義の噴火大和讃など、地域の拠点を活用しながら伝承の取組が続けられています。



嬭原観音堂における語り継ぎ活動



写真提供：嬭恋郷土資料館

和讃会による浅間山噴火大和讃

写真提供：嬭原観音堂奉仕会

嬭原区・嬭原地区活性化協議会

POINT

遺構の活用と活動継続の工夫

嬭恋村嬭原地区では、現存する天明3年浅間山噴火災害の遺構において、「火山災害と復興」を実現できる場づくりに取り組んでおり、地域住民による語り部活動の他、周辺関連団体・施設等と連携した行事等を行っている点が特に優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)



天明3年の浅間山噴火を描いた「夜分大焼之図」(長野県小諸市美奈津津夫氏所蔵)

優良
認定
No.

4

えちごせきかわ大したもん蛇まつり

「昭和42年8月 羽越水害」新潟県関川村

毎年の、まつりと教育で伝える大水害 大蛇の長さ“82.8m”に意味を込める



「大したもん蛇まつり」

写真提供：関川村

関川村

POINT

まつりと教育による深い浸透

まつりのシンボルとなる大蛇の長さを、羽越水害の発生日にちなんで82.8mに設定し、村の中学生全員が参加し、事前学習でまつりの開催意義を学んでいます。令和4年8月の大雨では、早い段階で住民自らが避難を開始するなど、まつりに参加することで、過去の水害の教訓と備えの意識が地域に深く浸透している点が特に優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)

村の大蛇伝説もとにした祭りの中で、多くの犠牲者を出した羽越水害(1967年8月)の教訓を次世代に伝える取組です。竹と藁を材料に、54集落の村民が分担して胴体を作り、それらを繋ぎ合わせて大蛇をつくり、それが祭りの日に村を練り歩きます。大蛇はギネスブック認定の世界一の長大、壮大なもので、その長さは羽越水害の発生日(8月28日)にちなんでいます。全ての村民が参加して楽しめる新たな祭りを作ろうと1983年に始まったこの祭りや教育活動によって、効果的に、継続的に水害伝承が行われる仕組みが構築されています。

優良
認定
No.

5

阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター

「阪神・淡路大震災」兵庫県神戸市

未曾有の都市型災害を語り部が伝え、迫力のコンテンツで世界に発信

阪神・淡路大震災(1995年1月)の経験と、防災の重要性、命の尊さと共に生きることの素晴らしさなど、震災の教訓を継承し、知識や技術の普及を図り災害被害の軽減に貢献するための施設です。迫力の映像を用いた震災の追体験、被災者の体験談と合わせた震災関係資料など、リアリティを感じる展示のほか、実験、ワークショップ、研修活動や被災者による語り部活動が行われています。子ども向けの内容が充実しており、また、外国語による施設案内もあり、災害対応の現地調査、支援等も行っています。



語り部が自らの体験を語る「語り部コーナー」



「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」

POINT

充実のコンテンツとリアリティ

阪神・淡路大震災の体験談を交えた展示や、体験コーナーが充実しているとともに、語り部ボランティアによる講話(被災体験談)やワークショップ、小中学生等を対象にした防災セミナーが多く実施されている点が特に優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)



写真提供：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

兵庫県

優良
認定
No.

6

和歌山県土砂災害啓発センター

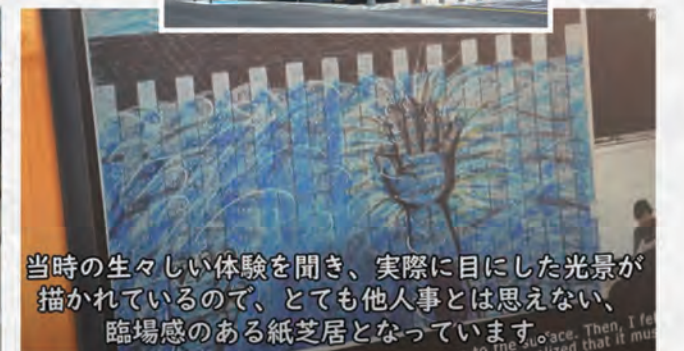
「平成23年紀伊半島大水害」和歌山県那智勝浦町

大水害を伝える手描きの紙芝居 早めの避難で大切な命を守ることを訴える

紀伊半島大水害(2011年)により甚大な被害を受けた那智勝浦町に設置された施設で、関係機関が連携して土砂災害の調査・研究や啓発活動に取り組むほか、和歌山県内の小・中学校等への出張講座出前授業や、県内外の修学旅行の受け入れ等の防災学習にも積極的に取り組んでいます。また、紀伊半島大水害の被災者が、自らの被災体験で学んだ教訓を伝承するため、手書きの紙芝居を作成し、継続的に語り継ぎ部活動を実施しています。



手作りの紙芝居による語り部活動



当時の生々しい体験を聞き、実際に目にした光景が描かれているので、とても他人事とは思えない、臨場感のある紙芝居となっています。

POINT

相手にあわせた独自のコンテンツ

平成23年紀伊半島大水害の被災者が、自身の被災体験で学んだ教訓を伝承するため、手書きの紙芝居を製作して語り部活動を多く実施していることや、県内外の自治会、自主防災組織や行政団体等を対象とした啓発活動に積極的に取り組んでいる点が特に優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)

和歌山県土砂災害啓発センター



「和歌山県土砂災害啓発センター」外観

優良
認定

No.

7

稲むらの火の館

安政南海地震 | 和歌山県広川町 |

広川町教育委員会

POINT

次世代への継承と実用的な備え

津波の恐ろしさを伝えるだけでなく、様々なシチュエーション(町中を歩いている時、車を運転している時等)での対処方法がまとめられ、地震津波から身を守るための知恵が示されています。また、「広川町日本遺産ガイドの会」が、町内の小学生を対象とした「ごりょう語り部ジュニア講座」を開催するなど、次世代への継承に努めている点が特に優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)



「稲むらの火の館」外観



広村堤防



稲むらの火祭り

写真提供：広川町

優良
認定

No.

8

広島市豪雨災害伝承館

平成26年8月豪雨 | 広島県広島市 |

広島市・一般社団法人梅林学区復興まちづくり協議会

POINT

被災者の強い思いと住民の一体感

被災者の苦労や、未来への伝承への思い、被災者と地域住民の一体感や強い思いが施設の誕生に繋がっている。施設の運営も被災者が行い、住民が主体となった研修会が行われているなど、地域主導の取組がなされている点が特に優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)



「広島市豪雨災害伝承館」外観



小学校の校外学習(災害図上訓練)



被災者による語り継ぎ活動

写真提供：広島市

優良
認定

No.

9

四国防災八十八話マップ

四国における全ての災害 | 徳島県・香川県・愛媛県・高知県 |

四国防災八十八話・普及啓発研究会

POINT

親しみやすさ、教育利用のしやすさ

四国4県の教育委員会を通じて、四国防災八十八話マップを小中学校等に配布するとともに、現地の探訪やオンラインツアーを開催し、効果検証に取り組んでいます。PDCAサイクルを確立し、学習方法や普及啓発ツールの開発・支援を継続している点が特に優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)



「四国防災八十八話」(冊子の表紙)



「四国4県ごとの四国防災八十八話マップ」



「徳島版マップ現地探訪(東田のうづき地蔵)」



「香川版マップ現地調査(五剣山)」



「地元高校生によるカルタづくり」



「巨大な四国防災八十八話マップを活用した防災学習」

優良
認定

No.

10

黒潮町の防災ツーリズム

南海トラフ地震による津波災害(想定) | 高知県黒潮町 |

黒潮町

POINT

海の恵みも活用して意識改革

避難行動をとれば助かるという意識改革(津波避難放棄者ゼロ)に向けて、官民が一体となって防災のワークショップを何度も繰り返しながら、浸水区域内の全町民の避難カルテを作成し、それに基づいた避難道や津波避難タワーの建設、避難訓練に取り組んでいます。防災ツーリズム(宿泊型夜間避難訓練プログラム等)を通して、自ら考え行動する力を身につける防災学習の場を提供している点が特に優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)

災害と自然の恵み両面から地域を理解し意識改革 来る巨大津波に備える

南海トラフ地震による巨大津波が想定される中で、防災を学び備えることに加えて、海の恵みの体験を組み合わせた防災ツーリズムを提供しています。「あきらめない 揺れたら逃げる より早く、より安全なところへ」を合言葉に、避難放棄者を出さないことを基本理念として、津波避難タワーの建設や体験型プログラムの提供など、ハード・ソフトの備えを進めるとともに、防災ツーリズムを通して、自ら考え行動する力を身につけ「人と自然のつきあい方を考える」防災学習の場が提供されています。



地域防災実感プログラム(自主防災組織「防災かがりがま士会」によるガイド)



夜間避難訓練プログラム

写真提供：黒潮町観光ネットワーク

熊本地震 記憶の廻廊

| 平成28年熊本地震 | 熊本県 |

熊本県

POINT

遺構の保存とネットワーク化

回廊型のフィールドミュージアムでは、ガイドや語り部が展示内容や震災遺構の解説を行うほか、語り部による講話も行われています。また、震災遺構や各拠点を周遊しながら、防災行動や備えについて学習するプログラムも実施されている点が特に優れています。
(NIPPON防災資産選定委員会)



全体マップ

震災遺構をつないだフィールドミュージアムで語り部等が地震災害の記憶・教訓を伝える

平成28年熊本地震によって出現した断層帯に沿って点在する震災遺構(58箇所)と、地域の拠点(16箇所)、中核拠点(2箇所)を広域的につなぎ、巡る回廊型のフィールドミュージアムです。中核拠点である旧東海大学阿蘇キャンパスでは、被災した建物と地震断層を一体的に保存している震災遺構と、地震発生時の映像や震災遺物等を展示している熊本地震震災ミュージアムKIOKUが隣接し、学習プログラムの提供や語り部等の育成など、積極的な伝承活動に取り組んでいます。また、「ONE PIECE熊本復興プロジェクト」との連携やアプリの活用など、周遊を促す取組も行っています。



「熊本地震震災ミュージアムKIOKU」におけるガイド



県防災センターにおける防災研修の様子

写真提供：熊本県

＼ 活 発 な 議 論 、 交 流 ／

「深化を考える会」が開催されました

令和7年2月21日、内閣府・国土交通省の主催により「第1回「NIPPON防災資産」の深化を考える会」が開催されました。この会合には、優良認定関係者、NIPPON防災資産選定委員会委員が参加し、約140名が傍聴(オンライン)する中、主に4つの視点(活動の継続、活動に巻き込む、教訓を伝える、行動につなげる)から、人材育成、学校教育との連携の重要性や、高齢者や外国人など対象を多様化していくことの必要性など、様々な意見が交わされました。



NIPPON防災資産

認定

認定一覧 (アクセス等関連情報リンク)

No. 1 奥尻島津波館及び奥尻島津波語り部隊

| 平成5年北海道南西沖地震 | 北海道奥尻町 |



No. 2 厚真町震災学習プログラム

| 平成30年北海道胆振東部地震 | 北海道厚真町 |



No. 3 栗駒山麓ジオパーク

| 平成20年岩手・宮城内陸地震 | 宮城県栗原市 |



No. 4 信濃川大河津資料館を拠点とした地域活性化の取組

| 信濃川における水害全般 | 新潟県燕市 |



No. 5 土岐川・庄内川 流域治水ポータルサイト

| 土岐川・庄内川における水害全般 | 愛知県名古屋市 |



No. 6 福知山市治水記念館

| 昭和28年9月台風第13号等 | 京都府福知山市 |



No. 7 坂町自然災害伝承公園

| 明治40年、平成30年7月豪雨 | 広島県坂町 |



No. 8 おとい 乙亥会館災害伝承展示室

| 平成30年7月豪雨 | 愛媛県西予市 |



No. 9 雲仙岳災害記念館

| 雲仙・普賢岳噴火災害 | 長崎県島原市 |



No. 10 念仏講まんじゅう配り

| 万延元年(1860年)土砂災害 | 長崎県長崎市 |



No. 11 大分県災害データアーカイブ及びフィールドツアー

| 大分県における全ての災害 | 大分県大分市 |



認定

No.

1

奥尻島津波館及び奥尻島津波語り部隊

| 平成5年北海道南西沖地震 | 北海道奥尻町 |

被災体験、復興経験
災害当時の役場職員や町民が伝える

大規模な崖地の崩壊や、最大29mもの津波により奥尻島の西海岸及び南部で壊滅的な被害が生じた北海道南西沖地震(1993年)の被災状況や当時の資料の展示を行っています。また、2012年に活動を開始した語り部隊が、実際に被災した体験や復興に携わった経験から、その教訓を伝承する活動を行っており、全国各地の自治体の視察や修学旅行等で、専門的な知識や経験等を直接語り、災害に強いまちづくりのノウハウの提供や、子供たちの防災に関わる総合学習への活動に取り組んでいます。(語り部隊には、災害時の役場職員や町民が所属)



「津波語り部隊」による活動



「奥尻島津波館」の内部展示

出典：奥尻島津波館公式ホームページ

奥尻町教育委員会・奥尻島津波語り部隊

POINT

専門知識や経験を有する語り部

平成5年北海道南西沖地震の体験や復興に関する専門的な知識や経験を有する語り部隊が、災害に強いまちづくりのノウハウを提供したり、子供たちの防災意識の向上を目的とした、総合学習の活動に積極的に取り組んでいる点が優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)



「奥尻島津波館」の外観

認定

No.

2

厚真町震災学習プログラム

| 平成30年北海道胆振東部地震 | 北海道厚真町 |

被災地ガイドや避難所運営体験で震災を伝承
高校生も語り部に

平成30年北海道胆振東部地震からの学びを伝えるプログラムで、厚真町在住の被災経験者や町内の高校生が自ら体験した内容(防災直後、避難生活時、現在までの自身や町の復興状況など、命や財産を守り、避難生活などの教訓に繋がる内容)や思いを伝えています。また、災害時や復旧の様子がわかるコンテンツをウェブ上で配信したり、現地視察のガイドに加え避難所運営体験や段ボールベッド組立体験などもプログラム化し、大人に限らず、若年層への取組も実施しています。



一般社団法人厚真町観光協会

POINT

地域連携による継続的な活動

厚真町在住の被災者に加え、町内の高校生も語り部活動に参加しています。地元の観光協会・教育委員会等が連携してガイドコースを作り、定期的にガイドの勉強会を実施するなど、災害伝承に係る活動を風化させないよう、地域に根ざした継続的な活動が実施されている点が優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)



被災地ガイド



避難所運営体験

出典：厚真町震災学習プログラム公式ホームページ

認定

No.

4

信濃川大河津資料館

| 信濃川における水害全般 | 新潟県燕市 |

を拠点とした地域活性化の取組

治水の歴史から水災害を
考えるミュージアム

「信濃川大河津資料館」は、越後平野を水害から守る大河津分水の建設経緯やしきみ等を展示する施設で、膨大な資料(関連資料約15,000点、河川等の書籍約5,000点)も活用しながら、信濃川の水害や治水の歴史を伝えています。また、ガイドや出前授業などの防災教育を通じた水害の自分事化に取り組んでいます。通水100周年(2022年)を機に、商店街等に連携先を拡大して地域の活性化にも取り組むことで、大河津分水の重要性や防災に対するさらなる浸透を図っています。



小学生による館内ガイド



地域商店街と連携し「展望室」をレストランに活用

栗駒山麓ジオパーク推進協議会

認定

No.

3

栗駒山麓ジオパーク

| 平成20年岩手・宮城内陸地震 | 宮城県栗原市 |

日本最大級の地すべり地形
防災も研究も観光も

平成20年岩手・宮城内陸地震により生じた、栗駒山麓崩落地の地形・景観を活用する「災害をテーマとしたジオパーク」です。「栗駒山麓ジオパークビジターセンター」では、イベントやツアー情報の提供、震災の記憶と大地の成り立ちに触れることができる展示を行い、見て、触れて、体験できる災害を自分事として考える工夫を行っています。防災教育、学術研究、観光など多目的に地形を活用し、既存の観光資源と結びつけた質の高い活動を展開しています。



栗駒山麓ジオパーク講座(荒砥沢地すべり(日本最大級の地すべり地形))



栗駒山麓ジオパークビジターセンター シアター映像

写真提供：栗駒山麓ジオパーク推進協議会

POINT

災害をテーマとしたジオパーク

「自然災害との共生と豊穡の大地の物語」の理念のもと、日本最大級となる地すべり地形をほぼそのまま保存し、複数のモデルコースにて、栗駒山麓ジオガイドが創意工夫を行いながら現地案内を行っています。災害をテーマとしたジオパークとして、防災意識の向上へ資する活動を継続的に実施している点が優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)



栗駒山麓ジオガイド

防災ジオ読本「くりばら大地の物語(理科編)電子版」

POINT

地域との幅広い関係構築

横田切れ(明治29年の大洪水)等の大水害を乗り越え、川との共生を模索してきた新潟地域防災の原点としての、近代から近年の新潟の災害について、その事実や挫折、失敗や苦悩などの教訓を発信しています。見学の受け入れ、ガイドや防災教育等を通じて、洪水被害を乗り越えてきた先人達の想いや苦悩を感じ、自分たちがすべき行動を考えてもらう取組を、地域と連携しながら進めている点が優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)



ボランティアによる周辺ガイド

「信濃川大河津資料館」外観



写真提供：信濃川河川事務所

認定

No.

5

土岐川・庄内川 流域治水ポータルサイト

| 土岐川・庄内川における水害全般 | 愛知県名古屋市 |

川のひみつを楽しく研究
流域治水を自分事化

「流域治水」や水防災について知り、学ぶことができるコンテンツをまとめて配信しているウェブサイトで、庄内川流域の流域治水の取組を紹介するとともに、地域の防災事例に合わせた防災教育のための資料を誰でもダウンロード可能となっています。また、学校関係者の意見も反映し、防災教育を実施する教員向けの資料(教員ガイド、学習指導・発問計画等)を充実させたり、子どもたちの自主学習、自由研究に活用できる資料の提供、流域治水検定等の取組を実施しています。



楽しみながら「流域治水」の理解促進、深い学びに結び付く多様なメニュー(左のQRコードからアクセス可能)



全問正解すると発行される「流域治水検定合格証書」



小学4～6年生対象教材の「教員用ガイド」



流域治水の取組をより広く知ってもらう「流域治水カード」(全39種類)

出典: 土岐川・庄内川・流域治水ポータルサイト

土岐川・庄内川流域治水協議会

POINT

楽しさ、分かりやすさの工夫

ポータルサイトでは、子供が防災や流域治水について学ぶ教材をはじめ、教員用ガイド、学習指導・発問計画、ワークシート等の教員向けのツールも利用できます。流域治水に関心をもってもらうきっかけとして、楽しみながら理解促進、深い学びを提供している点が優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)

認定

No.

6

福知山市治水記念館

| 昭和28年9月台風第13号等 | 京都府福知山市 |

まちが壊滅 その記憶と対策を
明治期の建物が語り継ぐ

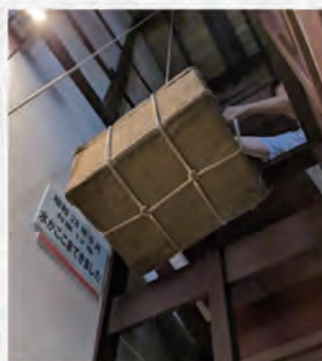
死者・行方不明者36名の被害を生じた台風第13号(1953年)から50年が経過したことを記念し、災害の記録を後世に語り継ぐべく開館した施設です。当時の水害の体験談を収録した映像や、過去から現在に渡る水害対策を紹介しているほか、季節ごとに様々な企画展を開催しています。明治期には町が壊滅するほどの甚大な被害にあうなど、たびたび水害に見舞われてきた福知山にあって、治水記念館は明治10年代に建てられた歴史的価値の高い建物です。



「福知山市治水記念館」外観



「福知山市治水記念館」展示



避難時の荷揚げ用滑車 出典: 福知山市治水記念館公式ホームページ

福知山市

POINT

建物そのものが語り継ぐ

治水記念館は、明治期の治水対策が施された家屋を改修したもので、当時の水害対策設備が展示されています。建物そのものが過去の水害の教訓を語り継ぐ歴史的な資料となっていることや、被災者の体験談の映像が残され放映されている点が優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)



過去の水害の体験談を放映

認定

No.

8

乙亥会館災害伝承展示室

| 平成30年7月豪雨 | 愛媛県 西予市 |

認定

No.

8

豪雨災害からの復興のシンボルで
市民が体験談を語り継ぐ

もともと、相撲競技や温浴の施設として建設された乙亥会館に、平成30年7月豪雨からの復旧を図る過程で設置した展示室です。過去の災害の歴史、平成30年7月豪雨災害の状況、そして復興への歩みや被災からの教訓や防災に関する情報を展示し、VR・ARによる災害の仮想体験ができるコーナーもあります。展示室や野村町内の被災現場を歩いて体験談を後世に伝える市民団体による語り部活動も行っています。



市民による語り部団体「語り部018のむら」による語り部活動



「乙亥会館」外観

出典: 西予市及び一般社団法人西予市観光物産協会公式ホームページ

西予市

POINT

地域を巻き込んだ防災減災学習

展示施設は、災害発生後から生活再建に向かった取組の軌跡を辿り、復興までの歩みが分かりやすくまとめられています。また、市民の語り部による野村町内の被災現場案内や、体験談の伝承活動など、地域を巻き込んだ防災減災学習に取り組んでいる点が優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)



平成30年7月豪雨 災害伝承展示室

伝承機能を凝縮した公園に
佇む巨石が早期避難を呼びかける

平成30年7月豪雨災害から得られた教訓を将来に伝承し、町民の防災意識や防災機能向上をはかることを目的に、教育や研修、犠牲者等への追悼の場として整備された防災公園です。公園内に、平成30年7月豪雨で流出した「巨石」と「水害碑」、明治40年7月豪雨の「石碑」、住民の一時避難所及び災害教育や研修所を兼ねた「坂町災害伝承ホール」が配置されています。町内小中学校の防災学習、地元住民協などの防災講座、他自治体や団体の防災視察研修などに利用されています。



園内に「巨石」と「水害碑」



映像資料例

写真提供: 坂町

坂町

POINT

シンボルの活用と映像資料

展示されている映像資料の中に、被災者や救護者の体験や証言があり、防災意識を向上させる内容が含まれ、語り継いでいくべき出来事と感じられるものになっています。また、他自治体や民間団体の研修ツアーが開催されたり、町内の小中学校とも連携しながら防災教育に取り組んでいる点が優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)



園内に「坂町災害伝承ホール」の外観

認定

No.

9

雲仙岳災害記念館

| 雲仙・普賢岳噴火災害 | 長崎県島原市 |

長崎県

POINT

体験型の総合ミュージアム

雲仙・普賢岳噴火災害に関し、施設に出品の明らかな史料が保管されているほか、それらを活用し、火山防災に関してわかりやすく学ぶことができる展示を行っています。また、その施設を拠点として、語り部による講話、定点ツアーなど様々な災害伝承活動が行われている点が優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)



日本初の体験型火山ミュージアム「かまだすドーム」(雲仙岳災害記念館)

フィールドと資料を駆使
次世代に火山災害を語り継ぐ

悲惨な火山災害となった、雲仙・普賢岳噴火災害(1990年代)からの教訓や、島原半島の自然、文化及び地域の価値とそこからもたらされる恵みについて来館者に伝える、日本初の体験型火山ミュージアムです。遊びを通じて大自然を身近に感じることができる「こどもジオパーク」や、自然と科学を学べるワークショップ「ワンダーラボ」など子ども向け、ファミリー向けの工夫があるほか、語り部が被災生活における教訓を語り継ぐなど、全国各地での巡回展も含め様々な伝承活動を行っています。



語り部による講話



定点ツアー

出典：雲仙岳災害記念館公式ホームページ

認定

No.

10

念仏講まんじゅう配り

| 万延元年(1860年)土砂災害 | 長崎県長崎市 |

長崎県・長崎市

POINT

日常と災害を紐付ける工夫

江戸時代に発生した災害を契機に始まった取組が、現在まで160年以上継続していることのほか、昭和57年7月豪雨(長崎大水害)において、該当地区で犠牲者が発生しなかった実績があることが優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)

日常と災害を紐づける
まんじゅう配り160年

まんじゅう配り



「馬頭観音」前での鉦(かね)はり

写真提供：長崎市山川内自治会

1860年5月末の大雨により、土石流で33人が亡くなった山川河内(長崎県長崎市)において、月命日の14日に「念仏講まんじゅう」を配って、家庭内で災害伝承を継続し災害リスクを共有する行事です。これは160年以上続いている行事で、被災地に祀られている「馬頭観音」で、鉦(かね)を鳴らしながら念仏を唱えた後(鉦はり)、持ち回りで全戸に「念仏講まんじゅう」を配ります。毎月14日に行うことで、土砂災害を日常生活と紐付け、住民自らが主体的に防災意識を醸成しています。

認定

No.

11

大分県災害データアーカイブ及びフィールドツアー

| 大分県における全ての災害 | 大分県大分市 |

大分大学減災・復興デザイン教育研究センター

POINT

教育とアーカイブ拡充の連動

デジタルアーカイブには、災害の情報として、当時の写真(県公文書館所蔵、新聞記事掲載)や報道機関が所有する映像が含まれており、災害リスクをリアリティをもって理解できます。そして、大学生に対する防災教育も行いながら、コンテンツの拡充が継続されている点が優れています。(NIPPON防災資産選定委員会)



防災教育に利用(高校生防災リーダー研修)

5600件の災害情報を活用
フィールドをめぐる防災教育を推進

熊本地震(2016年)、九州北部豪雨(2014・2017年)など、大規模災害の多発を契機として制作したデジタルコンテンツで、過去約1300年間、5600件以上の災害情報を写真や映像とともに地図上で閲覧できます。これを用いた高校生対象のフィールドツアーでは、地域の災害を知る人が被災状況や災害の教訓を伝えています。災害伝承碑の調査、過去の災害体験談の映像収集などを通じてコンテンツを拡充し、「おおいた防災アプリ」(大分県)とも連動して防災教育ツールとしての活用も進めています。



フィールドツアーにおいて語り部から被災状況や災害の教訓を学ぶ



高校生・大学生による若者からの提言

サポート
窓口

NIPPON防災資産サポートセンター

国による「NIPPON防災資産」の取組を支援・補完することを目的に、「災害の自分事化協議会事務局」を務める一般財団法人国土技術研究センターにおいて「NIPPON防災資産サポートセンター」を設置しております。NIPPON防災資産の取組に磨きをかけ深化するための支援や普及に係る支援を行っておりますので、問合せなどはこちらのフォームからご連絡ください。

